

Birgit Kjærsgaard
Hachinohe, Japan
2026

生と死のあいだで
魂は蘇る。

THE MOUNTAIN OF SADNESS

Return of The Souls

デンマーク人ビジュアルアーティスト
ビルギット・ケアスゴー展覧会

2026

7.31 (FRI.) - 8.4 (TUE.)

10:00～19:00 * 最終日は16:00閉場

八戸市美術館/ギャラリー1・2

八戸市番町10-4 / 入場無料

8.7 (FRI.) - 9.5 (SAT.)

10:00～17:00 * 毎週日曜日と祝日は休館

八戸酒類株式会社・酒蔵

八戸市八日町1番地 / 入場無料

アーティスト：ビルギット・ケアスゴー（デンマーク）

共催：八戸市

協力：八戸市国際交流協会

企画コーディネート：今川和佳子（合同会社 imajimu）

助成：EUジャパン・フェスト日本委員会、笹川スカンジナビア財団、トヨタ財団（デンマーク）、駐日デンマーク大使館、CAVI
（デンマーク／オーフス大学先端視覚化・インタラクティブセンター）、オーフス市文化振興基金

お問い合わせ：wakako@imajimu.com tel.090-5781-5319



The Mountain of Sadness:Return of the Souls

About Exhibition

『The Mountain of Sadness: Return of the Souls』は、青森県の霊場・恐山の風景に着想を得た映像インスタレーション作品です。死者への祈りや追悼の文化を手がかりに、生と死、記憶と忘却、そして魂の帰還をテーマに展開されます。作品は、冥界への入口を思わせる「地獄の源」、死者と再会する場所としての「天国の湖」、そして魂を見守る「慈悲の女神」の三つのタブローによって構成されています。さらに、長年共同制作を行ってきた舞踏家・故 鶴山欣也氏へのオマージュや、雪女をはじめとする神秘的な存在、還ってきた魂たちとの予測不能な出会いの物語が織り込まれています。フィルム、デジタル映像、光、音響によって構成される空間が、鑑賞者を現実と異界のあいへと誘います。



About Artist

ビルギット・ケアスゴー
Birgit Kjærsgaard



デンマークを拠点に活動するビジュアルアーティスト。オーフス建築学校およびオーフス大学音楽学部で学び、映像、音、インスタレーションを用いて、記憶、死生観、信仰、人と場所との関係性をテーマに制作を行っている。2004年よりデンマーク芸術財団の支援を受け、世界各地の文化的象徴や精神的風景を探索するアートプロジェクト《Vendelstrom》シリーズを展開。これまで東京、京都、青森等で、日本の霊山や死生観に着想を得た作品を発表してきた。本展に向けて2026年1月・2月に八戸を訪れ、八戸三社大祭や地域文化に関するリサーチを行った。

Opening Event

磯島未来ダンスパフォーマンス & ビルギット・ケアスゴーによる作品解説



▲国内外でダンス経験を持つ磯島未来

7月31日(金) 18:15 ~ 18:45

会場：八戸市美術館/ギャラリー1.2

参加方法：予約不要・無料

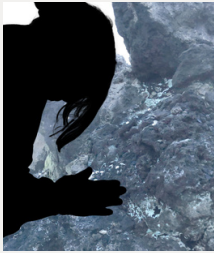
言語：英語、一部日本語あり

八戸市在住のコンテンポラリーダンサー・磯島未来が、作品から着想を得たダンスパフォーマンスを披露します。ビルギット本人による作品解説もあり。

Workshop

はちのへアートプラットフォーム事業関連プログラム

ワークショップ 記憶の風景を辿る ~作品を鑑賞して詩を作ろう~



8月1日(土) 13:00 ~ 14:30

会場：八戸市美術館/ギャラリー1.2

参加対象：どなたでも（外国人居住者大歓迎）

参加方法：要予約・無料 言語：英語、日本語

実際に展示されたインスタレーション作品を鑑賞し、感じたことを詩や俳句などの短い文章で表現するワークショップ。アーティストによる時刻デンマークの紹介や作品解説もあり。

[Art Journey]

Return of the Souls: The Hachinohe Route

—魂の帰り道をたどる・八戸ルート—

八戸三社大祭では、人々は神社から神社へと続く道を進みながら祈りを捧げます。また恐山では、人々が霊場を巡りながら亡き人との再会を願います。このプロジェクトは、その二つの「巡る」と言う共通点に着想を得ています。そして八戸三社大祭の運行ルートを骨格に、その周囲に点在する場所を結びながら、街全体をひとつの体験の場として捉えます。

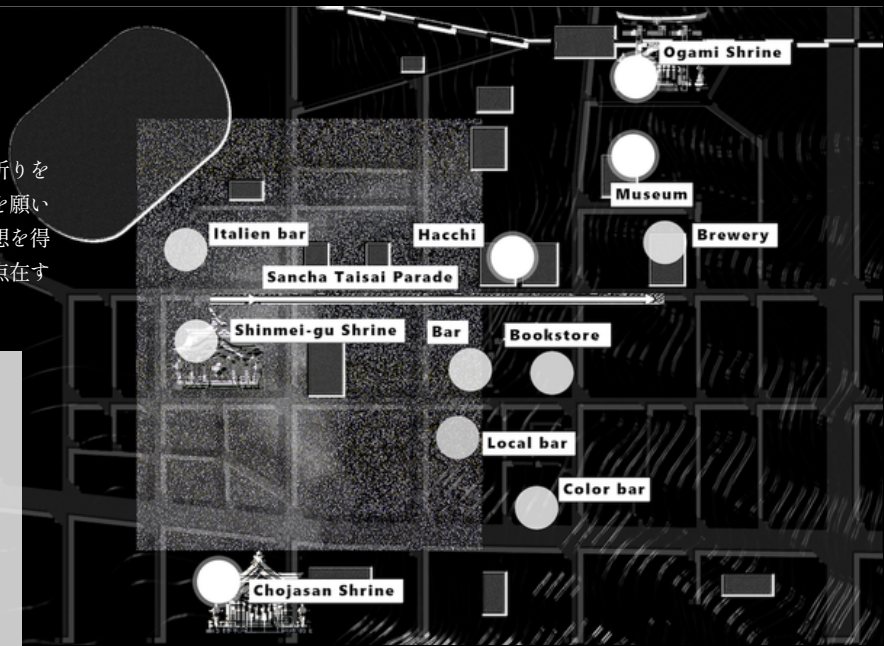
美術館、神社、酒蔵、bar——

今回の展覧会では、美術館や酒蔵以外にも中心街の数カ所に、ある題材を用いた作品が点在しています。それぞれの場所は、祭りと巡礼、記憶と日常をつなぐ結節点として存在しています。

この旅に決まった順路はありません。

どこから始めても、どこで終わってもかまいません。

あなた自身のペースで街を歩き、作品や人々と出会い、それぞれの場所に息づく記憶や物語に触れてください。



*会期中、展覧会場にて、より詳細なマップを配布いたします。

With Support From:



Scandinavia-Japan
Sasakawa Foundation

TOYOTA FONDEN



ROYAL DANISH EMBASSY
Tokyo

CAVI



With gratitude to:

Willie Flindt,
Oscar Balund
Sophie Balund